

# 調査レポート

## 三重県経済の回顧と展望 ～ 地域活性化の軸として注目される観光産業～

2003年のわが国実質GDP成長率は、中国向けを中心としたアジア向けの輸出や設備投資の増加を背景として、+2.7%と2年ぶりのプラス成長となりました。もっとも、地域別にみると、産業構造の相違などを背景に回復の速度には差があるのが現状です。そのため、今後着実な回復軌道を辿るためには、各地域の特色を生かした地域活性化策が必要になります。そこで今回は、三重県経済の2003年度の動きと今後の展望を整理したうえで、地域活性化の有効な手段として注目が集まっている観光産業の取り組みと、観光産業振興のための施策について検討しました。

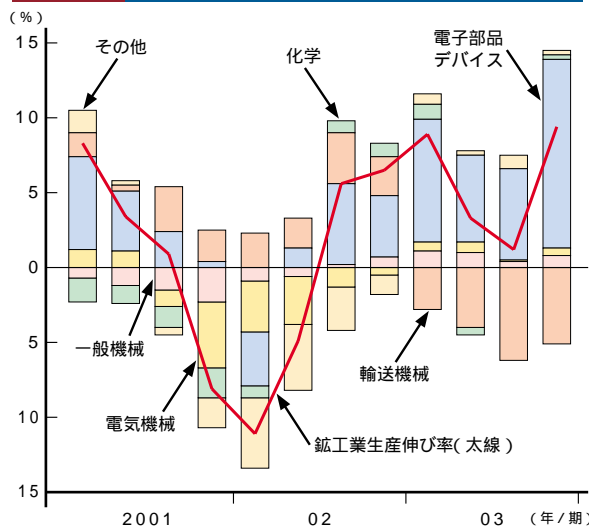
### 1. 三重県経済の2003年度の回顧と展望

#### (1) 2003年度三重県経済の回顧

2003年度の三重県経済を振り返ると、総じて回復局面を持続しました。まず、企業部門を供給面からみるために鉱工業生産の推移をみると(図表1)、2002年の後半に前年比プラスに転じた後、増勢を持続しました。業種別では、輸送機械が2003年入り後、前年の反動を主因にマイナス基調で推移したものの、全

国的なデジタル関連消費の好調を背景として、電子部品・デバイス工業は好調を維持しました。ここで、三重県の産業構造をみると(図表2)、全国と比べて第2次産業のウェイトが高いことから、製造業の堅調な推移が県内経済を牽引したことを指摘できます。こうした動きを受けて、設備投資も製造業を中心に前年を上回る水準で推移

図表1 三重県の鉱工業生産の推移(前年比)



図表2 三重県と全国の産業構造の比較

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
三重県	1.9	37.9	65.0
全国	1.3	27.1	76.7

図表1  
(資料) 三重県総合企画局統計調査チーム「鉱工業生産の動き」

図表2  
(資料) 内閣府「平成13年度県民経済計算」  
(注) 附属利子の控除等を行う前の値であるため合計は100%になっていない。

した模様です(注1)。

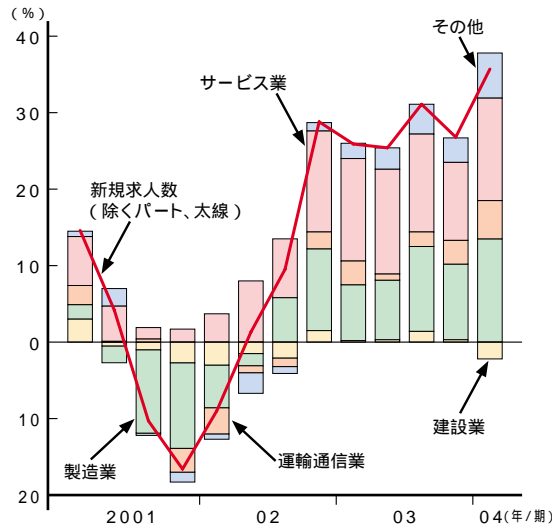
次に個人部門をみると、下げ止まりの兆しがみられます。まず、個人消費の背景となる雇用・所得環境の動向を整理すると、以下の2点から持ち直しの動きが窺えます。

第1に、新規求人数の推移をみると(図表3) サービス業に加え製造業も前年比増加基調を維持しているうえ、有効求人倍率をみても(図表4) 改善傾向が明確化しており、2003年12月には1.04倍と1倍を超える水準に達しました。もっとも、常用労働者数をみると(図表5) サービス業は前年比プラスで推移しているものの、製造業は前年比減少基調を持続しています。常用労働者数は新規求人数や有効求人倍率に遅れる傾向があるため、今後緩やかに回復に向かうとみられるものの、「雇用のミスマッチ」などを背景に「ジョブレスリカバリー(雇用なき回復)」に陥っている可能性もあり、その動向には注意が必要です。

第2に、現金給与総額の推移をみると(次頁、図表6) 常用労働者数とは逆に、製造業の前年比

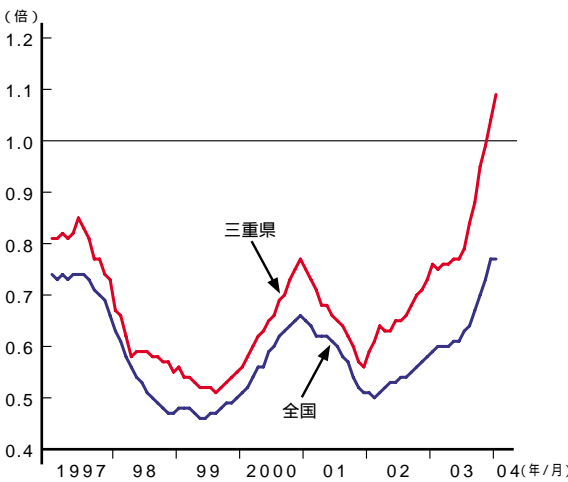
(注1) 財務省東海財務局津財務事務所「三重県内経済情勢(2003年10月)」

**図表3 三重県の新規求人数の推移(前年比)**



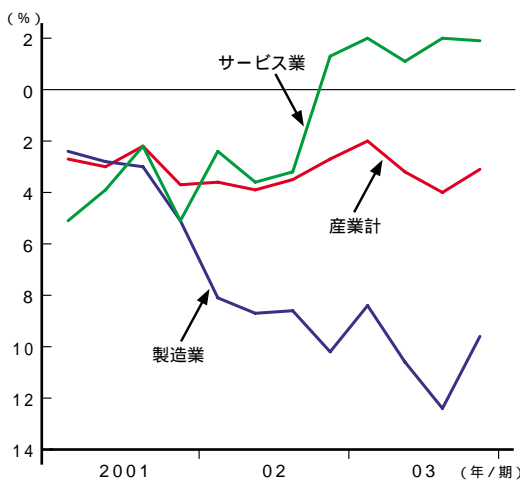
図表3  
(資料) 三重労働局職業安定部「労働市場月報」  
(注) 2004年1~3月期は1月値。

**図表4 有効求人倍率の推移(季節調整値)**



図表4  
(資料) 三重労働局職業安定部「労働市場月報」、厚生労働省「職業安定業務統計」

**図表5 三重県の常用労働者数の推移(前年比)**



図表5  
(資料) 三重県統計調査チーム「毎月勤労統計地方調査」  
(注) 事業所規模5人以上ベース。

プラス基調を主因に、産業全体ではマイナス幅が縮小する傾向にあります。

以上に加えて、個人消費を販売サイドの統計からみると(図表7)、百貨店販売額とスーパー販売額は減少傾向が持続しているものの、2003年度入り後に前年比マイナス基調に転じていた新車登録台数が、普通車を中心に、足下では前年比プラスに転じるなど、明るい兆しもみられます。

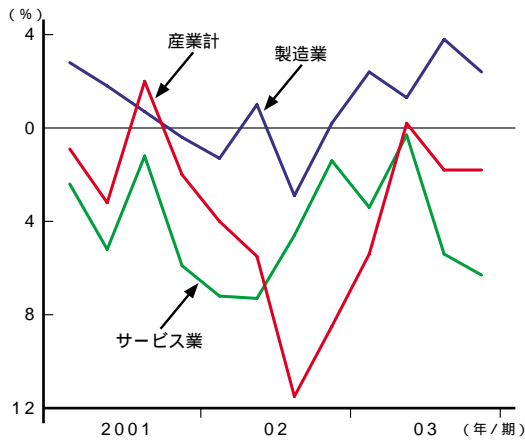
最後に、公共部門をみるために、三重県の投資的経費(注2)の推移をみると(図表8)、2003年度は前年度比16.8%と大幅に減少したものの、2004年度は+4.7%と8年ぶりに前年度比増加となっており、減少傾向に一応の歯止めがかかりました。

## (2) 今後の展望

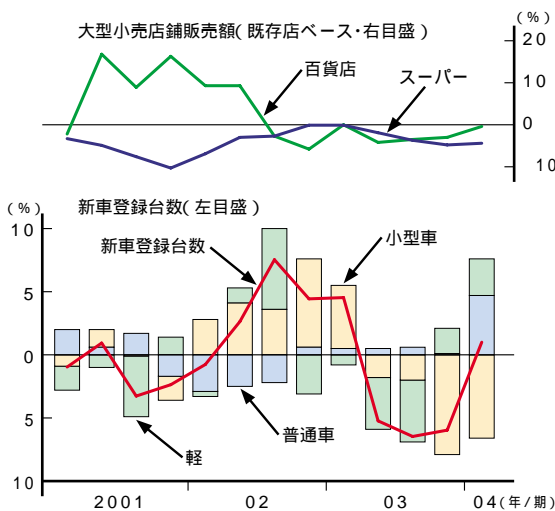
このような状況下、今後の三重県経済を展望す

ると、2004年1月にシャープの亀山工場が稼働し始めたことに加え、2005年以降、富士通や東芝が県内で大規模な設備投資を行い半導体の増産を図る計画であることから、製造業を牽引役として回復局面が持続する見通しです。もっとも、今後、本格的な回復軌道を実現し持続するためには、製造業に加えて県内経済を牽引するもう1つの柱を育てることが必要とならましよう。

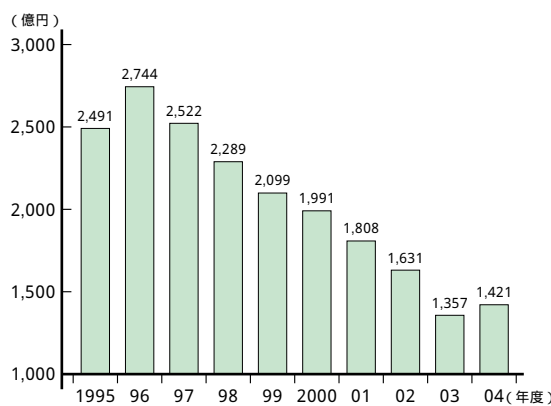
図表6 三重県の現金給与総額の推移(前年比)



図表7 三重県の個人消費関連指標の推移(前年比)



図表8 三重県の投資的経費の推移



図表6

(資料) 三重県統計調査チーム「毎月労務統計 地方調査」  
(注) 事業所規模5人以上ベース。

図表7

(資料) 三重県総合企画局統計調査チーム「県内大型小売店販売額」、三重県自販協会「新車登録台数」、三重県軽自動車協会「軽自動車登録台数」  
(注1) 新車登録台数は乗用車のみ対象。  
(注2) 大型小売店販売額の2004年1~3月期は1月値。  
(注3) 新車登録台数の2004年1~3月期は1~2月値。

(注2) 道路、公園の建設など社会資本整備に要する経費であり、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費からなる。

図表8

(資料) 三重県HP  
(注) 当初予算における金額。

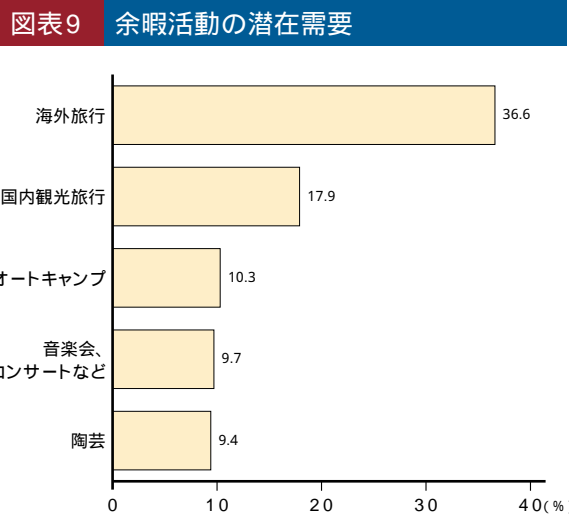
## 2. 観光産業への期待

### (1) 注目される観光産業

以上みてきたように、製造業と並ぶリーディング産業の育成が求められるなか、観光産業への期待が高まっています。実際、三重県でも、2002年には4,285万人だった観光客数を、2006年には4,600万人にすることを施策目標として掲げるなど観光振興へ向けた取り組み姿勢を明確にしています(注3)。このように観光産業に注目が集まっている背景として、以下の3点を挙げるすることができます。

第1に、観光産業は関連産業の裾野が広いことから、雇用創出効果や生産波及効果による経済の活性化が期待できることです。国土交通省の試算では、2002年の観光産業の生産波及効果は49.4兆円であり、雇用創出効果は398万人に上ります(注4)。

第2に、高齢化による余暇時間の増加などを背景として、観光に対する潜在需要が高まっていることです。余暇活動ごとの潜在需要をみると(図表9)、海外旅行が1位、国内観光旅行が2位を占めています。



第3に、三重県の状況に目を向けると、観光資源として活用しうる資源が豊富に存在し

ていることが指摘されます。三重県は、伊勢志摩と吉野熊野の2つの国立公園を有するなど自然環境に恵まれていることに加え、萬古焼などの伝統産業から自動車などの最新産業まで観光資源として活用しうる産業文化財が数多く存在しています。

### (2) 政府や地方自治体などの取り組み

次に全国の動向をみると、わが国政府は、訪日外国人旅行者の増大と経済の活性化を目的として観光振興に積極的に取り組んでいます。具体的には、2002年12月の「グローバル観光戦略」や、2003年7月の「観光立国行動計画」に基づき、日本の魅力・地域の魅力の確立、日本ブランドの海外への発信、観光立国に向けた環境整備、などの施策を推し進めています。このように政府が「観光立国」の実現に向けた取り組みを明確にするなか、地方自治体や民間

(注3) 三重県「県民しあわせプラン」

(注4) 国土交通省「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」

図表9  
(資料)(財)社会経済生産性本部「レジャー白書2003」  
(注1) 潜在需要は、参加希望率から実際の参加率を引いた値。  
(注2) 国内観光旅行は、避暑・避寒、温泉など。

**図表10** 各地の主な観光振興の取り組み

項目	主な取り組み地域	概要
産業観光	愛知県	産業遺産をテーマごとに結びつけ情報発信。
	愛媛県新居浜市	別子銅山関連の産業遺産を活用したまちづくり。
エコ・ツーリズム	沖縄県竹富町	自然環境を損なわないような自然体験の推進。
グリーン・ツーリズム	山形県寒河江市	雪中いちご狩りといった農業観光の取り組み。
	京都府美山町	萱葺きの残る景観を活かした都市農村交流。
町並みを利用した観光	徳島県脇町	歴史的建造物であるうだつの町並みを修復。
	三重県伊勢市	伝統的町並みを「おかげ横丁」にて再現。
都市観光	東京都湾岸新都心	都市機能の集積を資源として集客。
イベント観光	富山県八尾町	伝統芸能「越中おわら風の盆」を活用したイベントの実施。
	岩手県遠野市	民話を観光資源としたイベント中心の集客。
その他	新潟県安塚町	「雪」を「雪の宅配便」などの方法で資源化。
	滋賀県長浜市	歴史的な町並みのなかで、ガラス工芸品を展示・販売。
	兵庫県出石町	伝統的な町並みに加え、「皿そば」を名物としてPR。

図表 10  
(資料) 国土交通省HP、各種資料を基に三重銀  
総研作成

の主導による観光振興も盛んに行われています(図表10)。

特に最近では、近代化遺産のもつ歴史的・文化的価値を地域固有の財産として見直そうという意識の高まりなどを背景に、産業観光に対する関心が高まっています。産業観光とは、歴史的・文化的価値のある工場遺構などの産業文化財(注5)を観光資源として活用し、新たな視点を提供することによって集客を図る観光のことです。産業観光は、従来の「見る観光」に加え、「学ぶ観光」や「体験する観光」といった新たな観光ニーズにマッチするものとして、さらなる発展が期待されています。そこで、産業観光の代表的な取り組みとして、愛知県と愛媛県新居浜市の例についてみてみます。

(注5) 産業文化財には、産業遺物、工場遺構だけでなく、現用の工場や産業機械なども含まれる。

### 愛知県

愛知県はわが国有数のものづくりが盛んな地域であり、数多くの産業文化財が存在しています。これらの産業文化財をテーマ別に編集し、点ではなく面としての視点を提供するために、産業文化財を紹介するための拠点を整備し、定例連絡協議会などを通じてこれらの拠点をネットワーク化したうえで、様々なツールを活用した情報発信を行っています。加えて、2001年に第1回の産業観光フォーラムが名古屋で開催されるなど、全国的な産業観光の振興にも積極的に取り組んでいます。

### 愛媛県新居浜市

1691年の開坑から1973年の閉山まで280年余りの歴史を有する別子銅山に関

連する産業遺構を活用した産業観光に取り組んでいます。新居浜市の産業観光の特徴は、市民レベルでの観光振興の動きが重要な役割を果たしていることです。例えば、ボランティアガイドの育成などを通じた体験型観光施設「マイントピア別子」の経営支援や(注6) 地元の高校による観光ガイドブックの作成などが挙げられます。最近では、インターネットの双方向性を利用した市民観光ボランティアとのコミュニケーションサイトが立ち上げられるなど、観光振興に対する市民の活躍の場はますます広がっています。

(注6) 市が運営する「マイントピア別子」が経営難に陥った際、市民団体の「マイントピアを楽しく育てる会」がボランティアガイドの育成などを行い、経営危機から脱することに成功した。

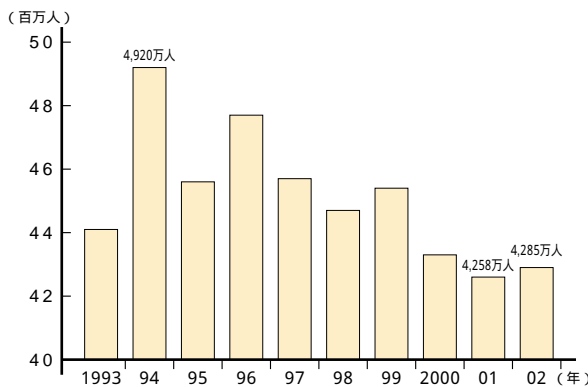
### 3. 三重県の観光振興の取り組み

#### (1) 三重県の観光振興施策

地域活性化の有効な

図表11 三重県の観光レクリエーション入込客数の推移

手段として、観光に対する関心が高まる一方、三重県の観光を巡る環境は厳しい状況が続いています。三重県の観光レクリエーション入込客数をみると



図表11 (資料) 三重県「観光レクリエーション入込客数推計書」

(図表11) 2002年は

前年比わずかに増加したものの、「世界祝祭博覧会(まつり博)」のあった1994年の約87%の水準にとどまっています。もっとも、今後を展望すると、三重県は観光客増加の絶好の機会を迎えているといえます。すなわち、2004年には、熊野古道が世界遺産へ登録予定であるうえ、松尾芭蕉の生誕360年を記念する様々なイベントが開催されます。さらに2005年には、中部国際空港の開港や愛知万博の開催など、積極的な観光振興に向けての周辺環境が整いつつあります。

このような状況のなか、三重県では「みえ歴史街道」(注7)や「まちかど博物館」(注8)などの従来からの取り組みを引き続き推進することに加え、新たな県の総合計画である「県民しあわせプラン」において、「観光みえの魅力増進プログラム」や「熊野古道の保全と活用による地域活性化プログラム」といった観光関連項目を重点プログラムとして挙げ(次頁、図表12) 観光振興に積極的に取り組んでいます。

(注7) 県内にテーマ別の「街道」を設定し、観光資源とする取り組み。

(注8) 個人のコレクションや地元の工場などを原則無料でその自宅や工場において公開することにより、身の回りにあるものを観光資源とする取り組み。

最近の観光振興の特徴をみると、従来のように有名観光地や大型集客施設に依存した施策ではなく、地域の景観や雰囲気など「地域の総合力」を結集したまちづくり型の観光に重心が移りつつあることを指摘できます。このことから、

図表12 三重県の観光関連施策

県民しあわせプラン	(重点項目) 観光みえの魅力増進プログラム
	地域の魅力を発揮させ、観光客の誘客に向けて
	観光商品づくり推進事業
	観光客誘客推進事業 旬の行事に合わせた誘客キャンペーンの実施(熊野古道・芭蕉生誕360年キャンペーン) 熊野古道循環シャトルバスの運行 等
	外客誘致推進事業 海外エージェントへの商品造成の働きかけ 東海3県1市が共同で設置する中部国際空港観光案内所での観光案内 等
	地域の魅力に磨きをかけ、観光客の誘客に向けて
	伊勢志摩快適空間創造事業
	松阪・東紀州地域交流空間創造事業
	まちづくりプロジェクト事業
	(重点項目) 歴史的・文化的遺産等を活かした三重の魅力づくりプログラム
	地域の中での環境づくり
	歴史的・文化的遺産を活かした風情あるまちづくり推進事業
	文化戦略推進事業
	行政の事業推進の中での環境づくり
	歴史的・文化的遺産を活かした県事業等の推進環境づくり事業 行政職員を対象とした保全・活用講座の開催 地域の活動者と行政との交流会・意見交換会の開催 等
	歴史資料の保存活用環境づくり事業 小・中学生を対象とした体験学習講座「調べてみよう!三重の歴史」の開催 等
	(重点項目) 熊野古道の保全と活用による地域活性化プログラム
	熊野古道への集客交流に向けて
世界遺産(熊野古道)対策推進事業 熊野古道アクションプログラムの推進 等	
東紀州への集客交流に向けて	
熊野古道集客交流推進事業	
熊野古道中学生等交流事業 紀伊半島3県の中学生交流会の開催 熊野古道をテーマとした発表会の開催	

住民参加型で進められる 伊勢志摩快適空間創造事業や、熊野古道アクションプログラムの推進は三重県の観光振興施策のポイントであるといえます。具体的には次の通りです。

### 伊勢志摩快適空間創造事業

町の景観や雰囲気向上を図る「まちづくり」によって集客を目指す伊勢志摩を重点地域とした事業です。企画や計画段階から地域住民を交えたワークショップを行うことで、地元住民の声を反映させながら、看板による歴史や来歴の紹介に加え、木陰のある休憩所の整備などの身近な取り組みを進めています。また、同地域ではこれとは別に、伊勢二見地域観光交流推進協議会が中心となって「伊勢二見地域の観光交流空間づくり事業」(注9)が進められており、この事業は、国の観光交流空間づくりのモデル事業(注10)に選ばれています。

図表 12

(資料) 三重県「県民しあわせプラン」、三重県HP、各種資料を基に三重銀総研作成

(注9) 住民と観光客との交流を通じた「もてなし」に重点をおいた「癒し空間」を形成することで集客を図る伊勢二見地域での取り組み。

(注10) 政府は、地域の幅広い関係者が一体となって進める観光を軸とした地域づくりと観光交流の拡大の取り組みを「観光交流空間づくり」と位置づけている。具体的には、モデル事業を選定し、インフラ整備といったハード施策だけでなく、キャンペーンの展開といったソフト施策の支援を行っている。

## 熊野古道アクションプログラムの推進

2004年6月に熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録される予定です。それに先立ち、2003年3月に熊野古道の保全と活用を図ることを目的とした「熊野古道アクションプログラム」が策定されました。その特徴として、市民が参加したワークショップや専門家のヒアリングをもとに産学官が一体となってまとめた行動計画書であることや、プログラムの進行が市民団体や業界団体などで組織される会議で決定される内発的な地域振興を目指していることが挙げられます。三重県もこうした取り組みを支援するために、熊野古道の魅力を全国に発信する情報拠点として「熊野古道センター（仮称）」を建設するほか、熊野古道をテーマとした教育活動に取り組んでいます。

### (2) 観光振興を通じた地域活性化に向けて

以上のように、三重県では観光産業の振興に向けて様々な取り組みを行っています。今後こうした取り組みを通じて、県内経済の一層の活性化が期待されています。そこで最後に、観光振興を通じた地域活性化策を検討すると、次の3点が挙げられます。

第1に、観光客が各観光資源を周遊しやすくするための拠点を整備したうえで、拠点間のネットワーク化を進めることです。身近なものを観光資源として利用する取り組みは、個人の多様なニーズの充足や地域活性化といったメリットがある一方、観光資源の点在化による観光客の利便性の低下といったデメリットがあります。そのため、それを補完するための制度作りが必要となります。

第2に、2005年の中部国際空港の開港と愛知万博の開催を観光客の誘致に活かすことです。空港から三重県までの海上アクセス（注11）を利用した広域的な観光ルートの積極的なPRや、津市が空港島に建設を予定している旅客船ターミナル施設を活用した観光情報の発信などが求められます。実際、三重県では、愛知県などと連携して観光ルートを海外の旅行会社や各種メディアを通じて提案していく予定です（注12）。

第3に、市民レベルでの観光振興の取り組みを拡大していくことです。観光施設だけでなく、地域の景観や雰囲気まで含めて観光資源とするためには、地域住民の積極的な協力が欠かせません。学生や地域住民を対象とした観光教育や観光ボランティアの育成など、行政と住民が一体となって、観光を中心としたまちづくりを進めることが求められます。

(2004.3.19)

中村 和司

（注11）中部国際空港の開港時には、空港島と津市が高速船で結ばれ、前島と鳥羽市がフェリーで結ばれるほか、松阪市でも海上アクセスの整備が計画されている。また、四日市市は、運航事業者の応募がないことから、当面の事業化を見合わせている。

（注12）例えば、外客誘致推進事業として2004年度から3年間で1億4,900万円の予算を計上し、中部国際空港観光案内所での観光案内などを計画している。